



Rainbow letter

日本周産期メンタルヘルス学会・ニュースレター

2019.4
No.19

次回学術集会・大会長ご挨拶

渡邊博幸 千葉大学社会精神保健教育研究センター 特任教授
医療法人学術会木村病院院長

このたび、大会長を務めます渡邊博幸と申します。今日、周産期メンタルケアに医療界内外からも多くの関心が向けられています。児への養育不全、虐待、妊産婦の自殺といった痛ましいニュースは後を絶ちません。さらに、生殖医療技術の進歩や子育ての多様性に即した心理社会的支援の開発、妊娠や授乳における向精神薬の影響と最適化など、たくさんのアンメットメディカルニーズが生じています。これらの課題の解決には、産科医療、小児科医療と精神科医療、母子保健と精神保健等の集学的な研究、施策の立案、研修・教育、実践、評価と改良という、弛まぬ研鑽が必要です。

日本周産期メンタルヘルス学会は、2003年に日本周産期メンタルヘルス研究会として発足し、その後2014年11月に名称変更とともに学会として改組し、年に一回学術集会を開催しております。今年で第16回を迎える日本周産期メンタルヘルス学会学術集会は、この領域における、様々な職種、立場の第一人者が一同に会し、上述のテーマについて、最新の研究成果と先駆的な実践を披瀝し、語り、切磋琢磨する場であるとともに、多彩なネットワークを結ぶ連携構築のハブ機能も果たしています。また、初学者や新たに参加する方々にとっても、周産期のメンタルヘルスに対する関心や理解度を高める上で大変有益であると考えます。

参加者の皆様にとって魅力的かつ有意義な学術集会となるよう、実行委員会、プログラム委員会を中心に鋭意準備を進めております。至らぬ点も多々あるかと存じますが、学会員の皆様はもちろんのこと、ぜひご所属先の方々にもお声をかけていただき、多数のご参加を賜れば幸いです。心よりお待ち申し上げます。

第16回 日本周産期メンタルヘルス学会
Japanese Society of Perinatal Mental Health

学術集会



2019年
会期 10月26日(土)・27日(日)

会場 千葉大学亥鼻キャンパス
医学部記念講堂・あのはな同窓会館

大会長 渡邊 博幸
千葉大学社会精神保健教育研究センター特任教授
特定医療法人学術会木村病院院長



日本総合病院精神医学会シンポジウム報告

第31回日本総合病院精神医学会総会が2018年11月30日、12月1日の2日間にわたって東京は有明のTFTビルにて開催されました(会長:東京女子医科大学医学部精神医学講座 西村勝治教授)。日本総合病院精神医学会総会での周産期に関するシンポジウムは、第29回総会から3年連続の採択で、今回の総会では、「総合病院における産後うつ病対策を考える - 機能する多職種連携とは -」というテーマのもと、それぞれ立場の異なる5人のシンポジストによる講演行がわれました。座長は、順天堂大学の鈴木利人先生と竹内が務めさせていただきました。1人目は、東北大学の西郡秀和先生に、産科医の立場から宮城県での周産期メンタルヘルスに関する活動状況や周産期に理解のある常勤の精神科医の必要性についてお話しいただきました。2人目は、福岡女学院大学の藤田一郎先生に、小児科医の立場から佐賀県での積極的な啓発活動により産後うつ病を減らすことができたという取り組みについてご報告いただきました。3人目は、東京医科歯科大学の松岡裕美さんから、同院での母子支援システムの紹介を通して、地域につなげていくために総合病院精神科の役割は、妊産婦の状態評価の支援や教育的な啓発活動であると、リエゾン看護師の立場から話していただきました。4人目は、埼玉医科大学の安田貴昭先生に、無床の総合病院精神科医の立場から、周産期で対応する妊産婦は重症度の幅が広く、コンサルテーションモデルではなく、リエゾンモデルでの介入の必要性についての指摘がありました。5人目は、千葉大学(兼木村病院院長)の渡邊博幸先生に、周産期領域は疾病性と事例性が複合的に関係し合っていることから多職種による連携が必要であるという指摘のもと、千葉県における行政との連携や自院での取り組みについてお話しいただきました。いずれの講演も実践的な内容で、現場で活躍されている生の声を聴くことができたと思います。会場には100名弱の参加者が集まり、本テーマの関心の高さをあらためて実感した次第です。今後も日本総合病院精神医学会総会での分野について取り上げられるよう要請していく所存であります。

(理事/竹内崇/東京医科歯科大学医学部附属病院精神科講師)

(投稿記事募集!)

平成ももうすぐ終わりですが、当学会はこれからも会員の皆様にとって有用な情報をニュースレターで取り上げていきます。詳しくは学会Webサイト (<http://pmh.jp/index.html>、QRコード(→))

または、学会事務局 (mental-1@pmh.sakura.ne.jp ←注:アドレス変更しています!)まで。

*企画・発行:日本周産期メンタルヘルス学会 事務局・情報関連委員会

